



かけこ通信

令和7年度 第2号
令和7年5月13日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

心身のリフレッシュと仲間との親睦を深めて ～遠足～



4月18日(金)全校生徒そろって、遠足へ出かけました。当日は最高気温24度、汗ばむほどの陽気に恵まれ、県立三瓶自然館サヒメルと三瓶山北の原で一日を過ごしました。

到着してまずサヒメル前でクラスごとに写真撮影し入館、全員でプラネタリウムに入って「季節の星座案内」を鑑賞し、たくさんの展示物を観覧しました。「不思議の森であそぼう!」「三瓶山と大地の成り立ち」「三瓶埋没林」「環日本海地域の生い立ちと自然」「三瓶の自然・島根の自然」などの常設展示に加え、企画展「はためく生きもの～国旗に描かれた動植物～」を見学することができました。その後自由行動となり、

サヒメル・北の原でクラス単位、グループ単位と個々で過ごしました。

1年生は入学から10日目を迎え、クラスでの新しい仲間の輪を広げようとしているところです。この遠足では、4～5名ずつのグループに分かれてカケコーや三瓶に関するクイズ・謎解きに協働して取り組み、声を掛け合いながら親睦を深めていました。2・3年生も昼食をはさみながら、それぞれに施設を見学したり身体を動かしたりして、リフレッシュしていました。

この遠足のねらいである『身近な三瓶山北の原の散策や三瓶自然館を見学することによって、心身のリフレッシュやクラス仲間との親睦を深め、島根の自然・地質など島根の自然環境への理解を深める』ことが達成できたようです。



メタセコイアとともに ～5月1日は開校記念日～

5月1日(木)全校朝礼を行い、72回目の開校記念日を祝いました。

1953(昭和28)年4月1日に掛合分校は定時制課程農業科及び家庭科の学校として設立され、5月1日には旧掛合小学校の一部を借りて開校式及び入学式を行いました。その5月1日が掛合分校の開校記念日です。1957(昭和32)年1月25日には新校舎が完成し、2月15日には新校舎へ移転、その記念にメタセコイアが植えられました。

冒頭、校長先生はそのシンボルツリーにふれられ、テレビ放送が始まり、エベレスト初登頂があったその当時の社会状況についてお話しされました。「『山間地域の開拓にあたる青年を養成したい』という地元の強い要望を受け設立された掛合分校は、現在グラウンドデザインに『地域や社会に貢献する人材を育成する』ことを掲げています。表現は異なりますが、設立当時の思いを受け継いでいまがあるのです」と諭されました。

その後、2年前の2023(令和5)年11月11日に行った創立70周年記念式典直後に、当時の3年生たちが「カケコーの歴史70年 ～閉校の危機を乗り越えて～」と題して発表した成果を紹介しました。それは、学校設定科目「地域創造」の授業で調べたカケコー70年の歴史と古い映像や写真をまとめたもので、現在の自分たちの学校生活と比較するなどして、当時を振り返るものでした。

在校生たちは、自分たちの学校の歴史や伝統を知り、「カケコー」のよさや存在意義をきっと感じ取ったことでしょう。



ルールとマナー ～交通マナーアップモデル校及び自転車鍵掛け推進モデル校指定式～



5月2日(金)6限の生徒総会のあとに、交通マナーアップモデル校及び自転車鍵掛け推進モデル校指定式がありました。これは「歩行者、自転車の交通ルールの遵守とマナーの向上を目指すとともに、自転車等の盗難被害の減少を図るため、自転車等の鍵掛けを推進する」ことを目的に、管内の学校1校が雲南警察署から毎年指定を受けていますが、今年度は掛合分校がそのモデル校に指定されました。

式では、雲南警察署長から新生徒会長へその指定書が交付され、生徒全員へ反射キーホルダーとワイヤーロックを贈呈されました。生徒を代表して生徒会長からは、交通事故に遭わないために、掛合分校の生徒が率先して歩行者、自転車の交通ルールを守り、自転車や家の鍵掛けを行うなど防犯意識を高め、他校の模範となるよう交通マナーアップ・鍵掛け運動を推進すると決意表明がありました。

島根県では昨年、自転車盗難の被害が260件発生し、そのうちの222件(約85.4%)が無施錠だったそうです。被害を防ぐためには鍵を掛けることが重要であると再認識できました。そして、今後の高校生活にも生かすべく「ルール遵守とマナー向上」の意識づけをする機会となりました。



うやま米はうまい! ～2年生営農体験実習(田植え)～



5月9日(金)に2年生が「営農体験実習(田植え)」のため、吉田町民谷宇山地区へ出かけました。当日朝は小雨が降り、田植えができるか心配されましたが、午前中の小止みのタイミングで無事に実習を終えることができました。また、午後にはお世話になる宇山営農組合・雲南市から講義を受けたり、生徒たちからインタビューを行ったりしました。

現地到着後さっそく農具「ばびひき」を使ったライン挽きを教えてもらい、その線の上に、全員で苗を植えていきました。この2年生は昨年5月の入間花



田植えに参加したこともあり、皆が一度は田植えを経験しています。寒空の下、風も田んぼの水も冷たいなか寒さに震えながらも、時おり空からは柔らかな明るさのぞき、生徒たちの賑やかな声が広がりました。わずか1時間ほどの田植えでしたが、農家の方々の大変さを実感できました。「楽しくて時間があっという間だった」「またやってみたい」とみんなで協力して田植えができたことに達成感を抱く生徒も多かったです。

昼食は準備していただいたうやま米のご飯の入ったお弁当をいただきました。一口目からお米の甘さを感じることができ、『冷めても美味しいうやま米』のおいしさを味わいながらその魅力が体感できました。

食後は、まず宇山営農組合の方々から、組合の現状や課題、お米ができるまでの流れ、なぜ米を輸出するのか、なぜ台湾なのか(2年生は11月に台湾研修旅行を実施する予定です)、そして台湾でのコメの販売の様子等の説明を受け、宇山地区を空撮した見事な田園風景を映した動画を見ました。そして、雲南市職員の方から雲南市と台湾の交流について、米輸出から人の交流へと題して、現地の物価やレートも交えた具体的な説明がありました。その後、2班に分かれて、営農組合のお二人へインタビューをしました。米作りのやりがい・楽しさや苦労、宇山地区のお米のおいしさなど、次々に質問しました。

今後も、宇山営農組合の皆様や関係方面の方々と協働しながら「たたら焰米(ほむらまい)、雪姫舞、うやま米」の販売戦略、広報などを行っていき、秋には稲刈り、台湾研修での販売も体験します。

